

1972年の国連人間環境会議を契機として、近年様々な領域で環境問題への取り組みがなされた。家政学会でも、1991年から環境問題特別委員会が発足し、環境問題が検討された。報告者は環境問題特別委員会の委員の一人であったが、この委員会での討論をもとにして、家庭経営領域から環境問題を整理し、ライフスタイルと環境との関わりを明らかにしたい。

はじめに、「人と環境との相互作用」を研究対象とする家政学としての環境の捉え方を整理し、これらを基礎にして、家庭経営領域での環境問題を考える。

家庭経営では、消費の仕方、家族や社会の人間関係の結び付き方、労働や時間配分の仕方などから捉えられるトータルな生活様式（ライフスタイル）という切口から生活問題を分析してきた。そこで次に、日本のライフスタイルの変化の方向を取り上げ、それと環境問題との関連を明らかにする。ライフスタイルの変化とは、家族規模の縮小、家庭機能の社会化、家庭内の労働や時間配分の変化、都市化と地域社会の変容などである。

以上から、今日の日本のライフスタイルの変化の方向は、消費を促し環境負荷を増大させる傾向にあることが明らかとされた。また生活者の消費の仕方は、家族や地域の人間関係や、生産者の供給の仕方や政策といった社会関係に規定されている。すなわち環境負荷の少ない生活の実現は、人間関係や社会関係を含めた広い意味での環境をどうつくりだしていくかに関わっており、われわれが取り組むべき環境問題の課題は、人と物、人と人との関わりをおさえた、トータルなライフスタイルの創造にあるといえよう。